



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第99回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

- 今回は、日本高等学校野球連盟の審判規則委員会から発信された2019年度の「重点指導事項」、「周知徹底事項」を紹介いたします。なお、読んでいただくと分かりますが、けっして目新しい事項を取り上げている訳ではなく、兵庫県では、従来から練習試合や公式試合などを通じて指導してきた内容です。
当県における地区大会や県大会前に配付している「規則・マナーに関する注意事項」でも同様の項目について周知しています。また、当HPコーナーにおいても、これまでに幾度となく取り上げ、具体的に事例を交えて紹介してきました。各項目に関連した記事の回号を補足として記載していますので、この機会に再度、読み返して理解を深めましょう。(ほとんどの項目について、複数回にわたって取り上げていることから、重要な内容であることが分かりますね。)

1 2019年「重点指導事項」「ルールに則ったプレイ=フェアプレイ」

昨年、スポーツ界は悪質なプレイやパワーハラスメントなど社会問題になる不祥事が相次ぎました。一方、平昌五輪スピードスケート金メダルの小平奈緒選手のフェアな対応は胸を打つものがありました。

選手権大会が昨年100回大会を終え、高校野球が広く世間から支持されている要因のひとつに、「フェアプレイの精神」があると思います。「フェアプレイ」は、連盟のシンボルマークの中でも表現されており、スポーツを行う上での最も大切な重要な精神です。今年5月から新たな元号に変わりました。選手権大会は101回を迎え、また新たな時代に入ります。様々な課題もある中、『不易流行』の変わらない真理として、「フェアプレイ」の更なる指導、徹底をお願いします。

定められたルールに則ったプレイ、これが「フェアプレイ」です。今年度も昨年度に引き続き、下記の項目に対し特段の注意を払いましょう。

〔兵庫県審判部 加筆〕

『以下の事柄は、野球の基本プレイの根幹をなす、投手／捕手／打者／走者の正しいふるまいです。』当たり前のことですが、この一つでも守れなかったら、野球(試合)が成り立ちません。練習試合等で審判委員とコミュニケーションを密にして、正しい理解のもと技術向上に役立ててください。切にお願いいたします。

1 正しい投球動作〔5.07(a)(1)(2)〕(= 兵庫県高野連 重点取組事項)

打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

振りかぶった腕を止めたり、上げた自由な足を止めたりしないで投球しましょう。

また、軸足を投手板に着けた状態での“汗拭き動作”等の腕の動きは投球関連動作となり、このような動作の際にはまず軸足を正しく外すようにしましょう。

【当HPコーナーで掲載した回: 第55回(ルール編)、第57回(ルール編)第94回(投手編)】

2 正しい捕手の位置〔定義 17 5.02(a) 6.02(a)(12)〕(= 兵庫県高野連 重点取組事項)

捕手は、ホームプレートの直後に位置しなければならないと定められています。したがって、両足をキャッチャースボックスから出すことのないよう注意しましょう。また、マナーとして、投球を受けた捕手が“ボール”をストライクに見せようとする意図でキャッチャーミットを動かしたり、球審のコールを待たず自分でストライクと判断して次の行動に移ろうとしたりする行為は止めましょう。

【兵庫県審判部 加筆】

公認野球規則に定められているように、両足をキャッチャースボックス内に置いていけば、サインとは逆コースの投球であっても対応でき、パスボールやワイルドピッチの防止に繋がるのではないのでしょうか。また、ボールをストライクに見せようとする行為自体も減るのではないのでしょうか。なお、「両足をキャッチャースボックス内に置く」というのは、キャッチャースボックスのラインに足の一部を触れている状態が限界であると理解して取り組んでいきましょう。

【当HPコーナーで掲載した回: 第 14 回(マナー・ルール編)、第 71 回(マナー編)、第 93 回(捕手編)】

3 正しい走塁[5.09(a)(1)](= 兵庫県高野連 重点取組事項)

一塁に対する守備が行われているとき、本塁一塁間の後半を走るに際して、打者走者は両足をスリーフットレーンの中かレーンを形作るライン上に置かなければなりません。上記レーン内を走りましょう。

【当HPコーナーで掲載した回: 第 23 回(ルール編)、第 60 回(ルール編)、第 95 回(走塁編)】

4 打者がヒットバイピッチ(死球)を得るために、投球から避けない行為[5.05(b)(2)]

投球を避ける動作のないもの、およびエルボーガードを投球に対して突き出す行為は止めましょう。

【兵庫県審判部 加筆】

昨年度は「周知徹底事項」の中で記載されていた事項ですが、今年度は、4つめの「重点指導事項」として取り上げられています。当県でも練習試合や公式試合において、頻繁にエルボーガードや足を出してヒットバイピッチを得ようとする行為が報告されています。故意にヒットバイピッチを得ようとする行為は決して許されるものではありません。何よりも自らが負傷する危険性を伴う行為ですので、絶対にやめましょう。

【当HPコーナーで掲載した回: 第 10 回(ルール編)、第 69 回(ルール編)、第 89 回(ルール編)、第 96 回(打者編)】

2 2019年「周知徹底事項」

⇒ 試合に携わる全員が正しい理解をして、行動しましょう！！

1 試合をテンポ良く進めるために ⇒ 無駄を省き、中身の濃い試合を！！

① 攻守交代時、先頭打者、次打者およびベースコーチは、ミーティングに参加せず速やかに所定の位置につく。タイプレク時の走者についてもミーティングには参加しない。(☞ 今年度追加)

【当HPコーナーで掲載した回: 第7回(マナー編)、第22回(マナー編)、第83回(マナー編)】

② サインは、複雑なものではなくし、速やかに出すよう監督に協力を求める。

③ 遅延行為と見なされる投手のけん制はしない。(離塁していない走者へのけん制など)

④ 捕手の動作は機敏にする。(投手への返球、速やかなサイン、用具の着脱、バックアップ、打ち合わせのあと、速やかに守備位置へ戻るなど)

【当HPコーナーで掲載した回: 第 80 回(マナー編)】

⑤ 投球を逸した捕手は、敏速にその球を自分で処理する。

【当HPコーナーで掲載した回: 第 70 回(マナー編)、第 93 回(捕手編)】

⑥ 捕手のブロックサインは禁止する。また、内野手からの投手へのサインは簡単にする。

⑦ 内野手が投手へ返球するときはベースライン(塁線)よりマウンド方向へ近づかず、速やかに投げ返す。

⑧ 日程、時間に余裕があるときでも、スピーディーな試合進行を励行する。

【当HPコーナーで掲載した回: 第 36 回(マナー編)、第 58 回(ルール編)、第 84 回(マナー編)】

2 マナーの向上について ⇒ 相手を尊重する行動を！！

- ① 準備投球時、打者や次打者などがダートサークル付近に近づき、タイミングを測る行為はしない。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 55 回(マナー編)、第 87 回(マナー編)】
- ② 走者およびベースコーチなどが、捕手のサインを見る行為、打者にコースおよび球種を伝える行為ならびに打者がベンチに投球のコースおよび球種を伝える行為を禁止する。このような疑いがあるときは、審判委員はタイムをかけ、当該選手および攻撃側ベンチに注意を与え、すぐに止めさせる。

【兵庫県審判部 加筆】

今年度、上記の下線部分が禁止行為として加えられています。走者およびベースコーチなどが、打者に捕手のサインを伝える行為のほか、捕手のサインを見る行為自体も禁止されています。

特に、走者はサイン伝達と疑われるような紛らわしい行為をしないよう注意してください。

【当HPコーナーで掲載した回: 第 33 回(マナー編)、第 66 回(マナー編)、第 86・87 回(マナー編)】

- ③ ベースコーチが、打者走者(走者)の塁に合わせて『セーフ』のゼスチャーおよびコールをする行為はしない。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 17 回(マナー編)、第 87 回(マナー編)】
- ④ 本塁打を打った打者の出迎えはしない。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 10 回(マナー編)、第 87 回(マナー編)】
- ⑤ 喜びを誇示する派手な「ガッツポーズ」などは、相手チームへの不敬・侮辱に繋がりがかねないので慎む。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 9 回(マナー編)、第 64 回(マナー編)、第 87 回(マナー編)】
- ⑥ 投手はロジンバッグを投手板の後方に置き、指先だけで使用し、丁寧に扱う。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 13 回(マナー編)、第 87 回(マナー編)】

3 規則上特に注意すべき事項について ⇒ ルールの中でも基本中の基本を理解して守りましょう！！

- ① 投手に基本的なルールを徹底する。(投手板への着き方、自由な足の位置、自由な足の踏み出し、軸足の移動とはずし方、投球動作・ストレッチの中断など)
【当HPコーナーで掲載した回: 第 25 回(ルール編)、第 45 回(特集編)、第 56 回(ルール編)】
- ② 野手(捕手)が明らかにボールを持たずに、塁線上および塁上に位置して走者の走路をふさぐ行為。(捕手のブロックなど)
【当HPコーナーで掲載した回: 第 3 回(ルール編)、第 59 回(ルール編)、第 78 回(ルール編)】
- ③ 送球を妨害する意図を持って、手や足を高く上げる走塁および野手に向かってスライディングする行為。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 16 回(マナー編)、第 28 回(特集編)、第 84 回(ルール編)、第 95 回(走塁編)】
- ④ 盗塁を助けるために、捕手の送球直前のスイングおよび故意にバッタースボックスから前に出る行為。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 1・2 回(ルール編)、第 65 回(ルール編)、第 95 回(打者編)、第 97 回(打者編)】

4 その他 ⇒ 安全に試合を進めよう！！

- ① 試合中にヒットバイピッチ(死球)などで大きな衝撃を受けたヘルメットは、使用しない。
- ② グラウンド内にいる全ての選手(特に次打者、ブルペンの選手)は、投手が投手板に位置したならばプレイに注目する。また試合中、練習中を問わず、捕手が座って投球を受けるときは(ブルペンも含む)、必ず捕手用具一式を着用する。
【当HPコーナーで掲載した回: 第 89 回(マナー編)】